

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100449		
法人名	有限会社ハートフルハウス		
事業所名	グループホームとどろき		
所在地	熊本県宇土市栗崎町736		
自己評価作成日	平成25年7月30日	評価結果市町村受理日	平成25年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年8月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事前に囲まれた景観、季節毎に咲く果物の花を散歩の途中でつみとり皆で楽しんでいる。一人ひとりの生活歴、状況を把握し一人ひとりの個別に応じたケアを行なっている。地域でとれた野菜をふんだんに使った食事の提供。毎日笑い声の絶えないケア。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

眼下に地域を望む高台に併設施設と共に建つホームは、周辺を竹林や樹木に囲まれ、季節を告げる野草や果実の収穫、軒先に巣作りした鳥の成長を見守るなど自然の恩恵を生活の中に上手に取り入れながら、入居者と職員が互いを思い支えあう一軒の家を形成している。帰りの遅い職員の帰路を案じ見送りをした後、床につかれる入居者や、玄関先の長椅子に並んで腰を下ろし、談笑しながら一時を過ごされる入居者の姿にはホームでの生活の豊かさが表れている。家族や地域からの信頼も高く、運営者は入居者に関する職員の更なる質の向上を目指し資格取得に力を注ぐと共に、管理者の「プロとしての姿勢を大切にしたい」との思いが、責任感のある職員のケアとなって実践され、温かなホーム運営を展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の特性、家族の思いを十分に受け止め、お一人お一人の個性や生活歴を尊重し、温かく見守るケアを実践している。	地域密着型事業所としての理念を確立し、ホームが最も大切にしている入居者一人ひとりの個性を尊重しながら、心の通うケアの実践を三項目の中に盛り込んでいる。毎回の会議や日々の支援の中で振り返り、「地味ではあるが毎日少しずつ目標に近づきたい」とする職員の意識の高さが窺える。異動で入った職員や推進会議の中でも理念を通じホームの姿勢を啓発している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板のやりとり、地域の敬老会参加、デイサービス行事、幼稚園運動会に参加し、外に出ることでグループホームの存在を確立している。	近隣に民家が少ないホームではあるが、回覧板のやり取り、散歩中の住民との会話や野菜や花苗などの差し入れが行われている。隣接するデイサービス利用者の訪問や、敷地内で行われる法人保育園の運動会には入居者が競技に参加するなど、法人間の交流は継続されている。地域の中へホームまでの案内板を新しく作り替え訪れる者の目印としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、施設のあり方、日々の暮らしについて資料を作成し、口頭・DVD等も用いて、より理解を得る努力をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や評価については、職員会議に揚げ、施設状況の把握や改善、職員意識の向上やスキルアップへ向けた取り組みに生かしている	行政や包括、地域代表者、家族の参加と、昨年末には地元消防団が来所し、ホームへの理解と有事の際の協力などが話し合われている。開始時には毎回会議の目的を参加者に説明することで会議本来の意義を啓発し、行事報告や入居者の現状を通し様々な意見交換が行われている。詳細な議事録は全家族へ送付され共有が図られている。	地域代表者や家族との話し合いの機会であり、管理者以外の職員も同席することで、更に意見の拡充に繋がるのが期待される。検討を頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年1月、市の実地指導において適切な指導を受け、改善点については対処済みである。市の担当者とも適時連絡を行うなど、日常的に連携を重視した関係に努めている。	推進会議への行政の参加によりその都度、適切な助言を得ている。日常的なメールでの連絡した研修会の案内などを受け、管理者が集団指導やグループホーム連絡協議会へ参加し連携を図っている。市の実地指導においては日頃の運営状況を評価する声を得ている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為を職員全員が正しく理解をしている。現在帰宅願望の強い方がいる為、事故防止の観点から就寝時に限り玄関の施錠を行ってはいるが、基本的には常時開放している。	職員は勉強会で身体拘束についての認識を深めると共に、人的環境である介護者の心身の状態が重要としている。業務を後回しにしても入居者との関わりを優先するよう心がけ、外出傾向の入居者へも自然な形で散歩に誘い不安を取り除いている。管理者は「入居者自身にしっかりと認めてもらえる支援をしたい」と語っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者および職員は虐待の研修に参加をし、報告勉強会を行っている。声掛け、薬、ネグレクト等を含めた虐待についての理解に努めており、虐待を行う職員はいない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者および職員は虐待の研修に参加をし、報告勉強会を行っている。声掛け、薬、ネグレクト等を含めた虐待についての理解に努めており、虐待を行う職員はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、疑問点や質問等には常に対応できる様、書面や口頭で伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望に関して公正な立場で対処している。規律、法遵守に沿って個々の意見や要望に対応できる柔軟性に心掛け開示している。	職員は日頃の関わりの中で入居者の意見や要望を把握し、食事や外出などの希望に出来る限り応じている。家族には面会時や推進会議、年一回の家族会の中で意見を求めているが、直接運営に反映するような言葉は出されていない。	家族のホームへの信頼が厚いことが書類等からも推察されるが、今後も様々な機会に忌憚のない意見を出してもらおうよう働きかけていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	重要な点については毎月の職員会議において意見交換を行い、朝礼時や状況に応じて職員の意見を聞く姿勢は常時保ちながら運営に反映させている	職員間の意志の疎通を図り、業務に慣れてしまいうことなく今後を予測しながら支援にあたるよう申し合わせている。職員は日常的に意見を出し合い“気づきノート”に書きとめ、話し合いの中で共有し解決している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H24.4より給与規定の改定を行い、勤務年数・資格取得による処遇改善を実施している。年1回自己評価を実施し意識の向上に繋げている。事業所合同でのレクリエーション、懇親会を行う等、職場環境の改善を努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得・内外部の研修参加を奨励し、スキルアップに繋げている。「職場の教養」を利用し、社会人としての倫理教育を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区GH連絡協議会・熊本県GH連絡協議会に加入し、各主催の研修等にも参加をしている。同業者間の意見交換を重視し、報告勉強会を実施することで当施設のサービス・質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごと、不安要望は家族からしっかり拝聴し、出来る限り、本人の思いが理解できる様に努めている。安心して暮らせる環境整備を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活パターン・習慣・趣味等を尋ねし、本人らしい生活がスタートできる様な配慮を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの優先順位を見極め、常に変化に対応出来る姿勢を持ちつつ適切なサービスの提供に心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来られる部分を大切にし、支え、見守り、導く事を根底として、本人との距離を計りながら共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとっては家族となり、家族にとっては本人の代弁者となり、家族間の絆が深まる様な意識を常に持つ職員である様に指導と実践をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の申し出や、思い出のある場所・家等へはドライブ等で同行介助を行っている。友人のいる他事業所への訪問等も同様に行っている。	「自宅の庭の果実をとりたい」「銀行に行きたい」「いつもの病院に行きたい」「知人に会いたい」など、入居者の思いを汲み取りながら馴染みの人や場所との関係が崩れないよう支援している。また、趣味であった習字を続けることが困難な入居者が文字を書く喜びを継続できるよう、ノートや筆入れをプレゼントするなどの心配りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同での作業、午前中の体操、天気の良い日の外気浴等、お一人お一人の体調、精神状況を見極めながらも全員で参加できる環境作りに努めている。全員でのボール遊びは日常的に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次に入所された施設に面会を行う等、現在の様子や状態を見せて頂くことで、新施設での不安解消に繋げる事や、関係家族との繋がりを継続する事を大切に考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに近づける様に職員一同で検討している。対応が困難な場合は家族に協力をお借りする事もある。	入居の段階では家族からの聞き取りに頼るところも大きいですが、その後はホームでの生活の様子を見ながら信頼関係を気づき普段のやりとりの中で入居者の言葉や表情から思いを把握し、支援に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や過去の施設への情報収集に努め、当施設で継続できる事柄については、出来るだけ配慮する様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の詳細にわたっての記録を行い、情報の共有をする事で、職員全体が常に本人の現状把握が出来る様にしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身状態の詳細にわたっての記録を行い、情報の共有をする事で、職員全体が常に本人の現状把握が出来る様にしている。	計画作成担当者はプランを立てるにあたり、本人・家族の意向を最優先にしながらケアに携わる職員が「わかりやすく、無理なく、共有できるように」ということも念頭においている。担当職員が入居者の近況を家族に報告し、面会時やプラン説明時にも希望や要望を収集して現状に即した内容としている。3ヵ月後のカンファレンスには全職員が参加し、共有を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時に介護記録、申し送りノートに目を通し、個々の状態把握をしてから勤務に就いている。検討が必要な時は随時見直しを行い、詳細な情報の共有を図りながら計画、実践に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出勤時に介護記録、申し送りノートに目を通し、個々の状態把握をしてから勤務に就いている。検討が必要な時は随時見直しを行い、詳細な情報の共有を図りながら計画、実践に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな立地である為、季節毎の農作物の収穫や、加工品作りにも職員と共に作業にあたり、手間のかかる事もあるが、無理のない範囲で本人の経験と能力を生かして楽しみながら作業にあたる環境作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族の要望を取入れている。受診は基本家族にお願いしているが、困難な場合は職員が同行し、結果を家族に報告している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援し、協力医による訪問診療をはじめ、家族や状況によってはホームでも柔軟に受診支援を行っている。家族の受診時は管理者により情報提供書を作成し情報が共有されている。認知症高齢者に理解の深い協力医の存在は、入居者・家族、職員にとっても安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の看護師、同事業所内の看護師に報告や相談をし、適切な処置を行えるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の不安軽減のため極力面会に行き状況把握に努める。病院関係者への情報提供を行い、退院後の受入体制の確認など積極的な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期段階での医療関係者、家族との話し合いの必要性を重視し、出来る限りの対応を目指している。本人・家族の強い要望により、施設での看取りを経験し、日々の介護サービスに生かされていると実感している。	家族会の中で重度化・終末期支援についてホームの取り組みを説明し、家族の思いはプラン説明や来訪時などに確認している。また、職員へも看取りについて意見を聞く機会を設けている。継続した医療支援が必要でなければホームでの看取り支援に対応し、昨年、家族の希望を受け協力医の支えにより見取り支援が実施されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行っているが、実践的な能力不足を感じる職員がいる為、今後も勉強会・訓練を行っていく予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に2回、昼と夜の想定で実施している。その他に緊急連絡訓練の実施。運営推進会議にも地区の消防団職員の方に参加をお願いし協力体制を築いている。	昼・夜を想定した消防訓練や緊急連絡訓練を実施し有事の際的確な対応が取れるようにしている。ホーム周辺は地域協力者により安全確認にも繋がる草刈りが行われる他、ホームでもコンセントなど日常的に安全点検を行っている。また、備蓄として水やインスタント食品などが置かれている。	今後は消防署の参加・協力による訓練の実施や、引き続き職員の防災意識の強化につながる研修会の開催や地域との協力体制の強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや考えを尊重し、気持ちの通う会話を心がける様指導、実践をしている。トイレ誘導等は気を配りながら穏やかに接する様に心掛けている。	職員は入居者への関わりが理念に沿ったケアであるか常に確認しながら業務にあたっている。法人全体で開催されるプライバシーや個人情報に関する研修会に参加し共有を図り、重要書類は事務所で管理されている。昼間使用しないポータブルトイレは毎朝居室外で保管したり、トイレ内に排泄用品などを置く場合は目隠しのカーテンをするなどプライバシーに配慮した取り組みが確認された。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	返答が確認できない場合であっても、常に声掛けや同意を確認するよう努めている。難聴の方へは筆談やジェスチャーを交える等、会話が一方的にならない為の工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調・気分・天候に配慮しながら、どの様に過ごしたいか本人の希望を取り入れ、自由に過ごせるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が出来る場合は入浴後や日々の衣類を選んで頂いている。職員が行う場合も季節や天候に合わせ、清潔を心掛けている。お出掛けやイベント時には化粧を施し、鏡を見ながら櫛で髪をすく等して楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設で採れた旬の野菜が豊富にあり調理を行っている。行事では利用者の意見を取り入れたメニュー作りをしている。皮むきや簡単な準備を共に行い食への関心を高めている	入居者の希望を取り入れながら季節感のある献立を作成し、食材購入や下ごしらえ・味見・配膳など楽しみながら食への関わりを大切に支援している。行事食やパンの日を取り入れたり、年二回の外食(道の駅・ショッピングモールなど)支援は入居者に好評である。主婦の経験を活かし食材(米・味噌・醤油)にもこだわり調理された料理は、職員と一緒に弾む会話の中で進められている。	ホーム菜園で収穫された野菜も活用しながら、食材にこだわったホームの食への取り組みを家族へも伝える事で安心して繋がり来訪時の会話も展開されていくと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らない為に多種類の食材を用い、肉・魚は日替わりで提供している。水分摂取が低い方へはとろみやゼリーを用いて補給している。必要に応じてきざみ・ミキサー食・粥等を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回毎食後に口腔ケアを行い、清潔を維持している。治療が必要な方へは家族と相談をしながら訪問歯科診療を行っている。現在3名が対象となっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で尿取り交換が出来る方は、見守り声掛けを行い、便意や尿意の意思表示が困難で介助が必要である方には、排尿チェック表や本人の動き時間帯を観ながらトイレ誘導を行っている。	個々の排泄状態を共有し自立の方の継続や声かけや誘導により失敗のない支援に努めている。日中は殆どが布下着を着用し、全員トイレでを利用している。夜間のみ使用される方のポータブルは、衛生面やプライバシーへも配慮して昼間は日光消毒を兼ね裏庭のデッキで管理されている。職員は紙パンツがどのようなものであるかを理解し支援することが大切であると自身が着用する研修も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心掛け、水やお茶以外にも牛乳やヨーグルトを用い味の変化を持たせながら、胃腸の働きを促している。日常的に散歩を行い、歩行困難な方に対しては蠕動運動を促す機会を使用している。勉強会などで便秘についての知識を高める努力も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のマニュアルに沿って、その日の気分に合わせながら、本人が心地よく入浴できる声掛け、誘導と支援を行っている。	職員は湯温や時間など一人ひとりのマニュアルを把握し安全で楽しい入浴支援に努めている。拒否の方へも無理強いせず30・60分後に再度声かけを行ったり、担当を変更するなど工夫している。浴室・脱衣所は清潔に管理され、入居者の状態に応じ手すりの位置も変更されている。柚子・しょうぶの差し入れを活用した季節湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活パターンを把握した上で、自由な時間帯での起床・就寝を見守っている。年間を通し気温調節に配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬箋を理解し適切に処置している。薬の変更が有った場合は、必ず申し送りを行い、状態の変化に注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の思いや、やりがいを尊重し、日常生活の中で茶碗拭き・洗濯物の整理・食事の下準備等をして頂いている。読書や習字の機会を設ける等、嗜好に合わせ多方面に渡り対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調を観ながら買い物や外食、ドライブを取入れている。併設施設でのカラオケを利用したり、周辺を散策、畑での収穫作業等も行っている。(みかん・グミ・ブルーベリー・ビワ・さくらんぼ等)	法人施設内は地域の方による草刈りの協力もあり、安全に散歩や散策、野菜の収穫などが行える環境が整備され、日常的な外出の機会に繋がっている。また、「新幹線を見に行きたい」「金柑を自宅にとりに行きたい」など、会話の中から出される外出の希望へは、体調や天候に配慮しながら、可能な限り早急に対応している。週末は近隣の子どもたちが遊びに来る事も多く、戸外に出る機会となる他、外食や散髪、買い物など家族の協力による外出支援も行われている。これらの日中の活動は夜間の安眠支援にも繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が買い物を希望される方が少ないのが現状ですが、買い物や病院受診時の精算などお金を持つ機会が出来る時には、本人で支払う方向での心掛けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は随時電話を使用している。職員から家族への連絡時にも極力会話が出来る様にしている。現在手紙のやり取りが出来る方が少ないので、暑中見舞いや年賀状は本人に書いて頂く様、支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の清掃を徹底し、清潔保持に努めている。天候に合わせ、温度・湿度・換気や明るさの調節を心掛け環境整備を行っている。季節の花や入居者の作品を掲示するなどして家族にも楽しんで頂いている。	一人ひとりが居心地良く座れる・過ごせる共用空間作り』を心がけ、一人になれる空間、入居者同士で語り合える空間が設けられている。室温管理についてもエアコンに頼りすぎず、夏場は扇風機やうちわ、緑のカーテンを活用するなど高齢者の身体や生活習慣にも配慮した取り組みをしている。昼食を終えた入居者が一人・二人と、うちわを片手に玄関先に設けられた休憩スペースに集い、和やかな光景にホームの穏やかな日常を感じ取れた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に椅子は決められた場所に設定し、個別の椅子やクッションを提供している。個々に好きな事が出来る様、ピアノ・TV・DVDプレーやレクリエーション用品を備えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や道具、家族の写真等を配置し、自宅と変わらない空間造りに努めている。	鏡台や畳・仏壇など馴染みの品々が持ち込まれたそれぞれの部屋は、職員によって小まめな掃除や換気が行われている。また、安全な環境へも配慮し個々のADLに応じ家具や物品の配置が検討されている。明るくどの居室からも眺められる緑の木々や果樹は、日々を過ごす入居者や訪れる家族にとっても居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖を使用している方は、施設内の手すりでも異動して頂く事や、自室の配置が理解困難な方へも、入口には部屋の名前を花で示し、なるべく自室を覚えて頂く様にしている。休憩を兼ね庭を眺められる様に廊下にソファを配置している。		